

# 心理学総論特論 4 回目のご指導を受けて

心理学部 講師  
博士（心理学） 武内智弥

総長先生は、今回の研修会では、ご自身の経験について語ることで、学生の気持ちを根底から鼓舞されているように感じました。

それは、総長先生は、36歳で専門学校を創った後、37歳の時にアメリカフォード大学の大学院に進学され、そこで英語と日本語の違いについてだけでなく、方法や成績システムといった教育文化の違いについて、大変なご苦勞があったというお話でした。特に、電卓しか使えず小数点まで計算する統計学の授業は、周囲から押しつけられる日本人へのステレオタイプの見方などに阻まれることなく、1年間、朝から晩まで勉強を繰り返し、合格されたご経験を紹介してくださいました。

これらは入学した大学でその人の価値を決めるような日本で歴史的に蔓延するステレオタイプに惑わされない姿勢のこと、TOPクラスの大学へ進学した人でも受かりにくい公務員試験や資格試験合格といった社会的に認められるランクにまで本学の4年間を通じて学生は実力を高められること、それは、換言すれば、賢くなることであり、人生はいつでも変えることができるということの教えでありました。

ここでいう賢さは、難しいことを難しく説明するのが賢いことではなく、総長先生のご経験にあったフォード大学の学部長先生のように、できる人ほど、分かりやすく平易な言葉で綺麗に表現されており、それこそが目指されている賢さです。本学では、資格試験の勉強を通じて、論理的に思考し、分かりやすい文章を書いたり、説明をしたりと、コミュニケーションとしての言葉を使える実力を身につけることも見据えていると、総長先生は明確にご説明されていました。これら学生のモチベーションを高めるように働きかけをされていました。

メソッドの主な方法については、前回までの感想文に繰り返し記載してきたために、今回の感想文でその他の点を中心に記述しましたが、この授業では今回初めて事例問題についても扱いました。事例問題（多肢選択式）も同じように行うようご指導があり、それは読んで理解をすることと問題と解説を暗記することでした。こうして授業に真剣に取り組み、授業での確認テストで満点とったことに満足せず、帰路の電車内、食事の前、寝る前、また明日など朝から晩まで何回も理解と暗記を繰り返し、日々の生活においても、教科書を常に持ち歩いて、空いた時間は繰り返し暗記していくような必死さによって、合格可能性を100%近くに高めることができることも、学生に伝えてくださいました。

これら今回の研修会で学んだことを実行しながら学生を指導・鼓舞し、必ず学生の希望が達成できる大学であり続けられるよう、これからも精進していきたいと、改めて感じております。